

7. 自閉スペクトラム症【講師：岩永 竜一郎先生】

□自閉スペクトラム症…社会的コミュニケーションおよび相互関係の障害、限定された反復する様式の行動、興味、活動

□社会コミュニケーションの問題…ASD児の対人関係の問題(孤立型、受動型、積極型、尊大型)、共感性が低く、相手の感情に気付きにくかったり、気付いても自分から関わりにいかない

□ASD児への対応…薬物治療、学校における特別支援教育、通級指導教室、特別支援学級、TEACCHアプローチ、PECS、行動療法、応用行動分析、ソーシャルスキルトレーニング、感覚統合アプローチ等

□ASDは治るのか?…現段階では完全に治す方法はない、2次障害は少なくすることができる

■定型発達の人とは脳活動に違い、異なる文化(行動とか考え方が違う)⇒文化を理解しお互い繋がっていくことが必要になってくる

■早期に気付き、支援者が二次障害を作らないようにしようと意識を持って関わる大切である

8. 発達性協調運動症【講師：岩永 竜一郎先生】

□協調運動の問題…姿勢維持が困難、手先が不器用、文字が上手く書けない等

□発生率…学童の5-10%決して少なくない、不器用な子どもたちが発達障害と認識されていないという傾向がある

□発達性協調運動症の問題…自己概念が低く友人関係も苦手になりやすい、学齢期の運動機能の問題は学校でQOL(生活の質や人生の質)と関係している

□脳性麻痺、実行機能、ADHDの併存、運動面(協調運動、手、眼球、模倣)等、日常的に苦労している方も多いが周りに迷惑をかけない為気付かれにくさがある

□発達性協調運動症に対する認識…周囲の人の理解のなさによる苦悩が多い

■周囲の人が発達性協調運動症のことを理解する必要がある。すべての人が考えることが課題になっている。

■本人がすごく困ったり、苦しんでいても、時には軽視されたり、周りに迷惑をかけない為気付かれにくさがあるので支援の対象として見ていく必要がある。

9. うつ病・双極症【講師：今村 明先生】

□うつ病の症状…①抑うつ感②興味や喜びの低下③食欲低下④睡眠障害⑤焦燥感または考えがすすまない⑥疲労感、気力の低下⑦罪悪感、無価値感⑧思考力の減退⑨自殺念慮、自殺企図の9項目,それ以外で身体症状、自律神経症状等様々な形で表れる

□子どものうつで併存しやすい症状…解離、自傷、依存・嗜癖、食の問題。背景に神経発達症があるケースも

■うつの初期症状を理解し、精神科や心療内科に繋がるタイミングを誤らないようにすることが大切である。

■十分で質の良い睡眠と食事、適度な運動をすることと自分が楽しめる活動を持つことが大事である。

10.統合失調症と前駆状態【今村 明先生】

□統合失調症とは、原因不明で幻覚、妄想、まとまりのない思考や行動、食欲の欠如などの症状を示す精神疾患、幻覚や妄想、意欲の欠如などの症状を伴う病気で、本人が病気であることを自覚しないことも多い。罹患率も平均100人に1人といわれており、誰にでも起こりうる可能性があり、思春期から青年期に発症するケースが多い。症状は主に「陽性症状」と「陰性症状」に分けられる。急性期は「陽性症状」が目立ち、慢性期になると「陰性症状」が目立つ場合が多い。

□統合失調では、認知や知覚の領域で、幅広く障害が起こる。

□ARMSの状態を理解し、早期介入・早期対応を行うことが大切である。

■統合失調症は脳の病気の一つでありふれた病気の一つである。

■治療法があり回復可能な病気だが、長くじっくりと付き合っていく病気である。

■初期兆候や症状の再燃のサインを本人も家族も理解することが重要。